



Tanabata (Star Festival) : 授業アイデア (簡単版)

七夕をテーマにした英語の授業アイデア 5本

Class _____ No. _____ Name _____

1. English Tanzaku : 英語の短冊を書こう

小学校・20分

🌀 I want to ... / I hope ... の形で願いごとを英語で書き、発表する。

1. 織姫と彦星の話を絵で紹介する。
2. I want to swim fast. などの例を見せ、自分の願いを考える。
3. 色紙の短冊に英語で書き、教室の笹に飾る。
4. 何人かが前で読み上げる。

2. 「乞巧奠」スタイルの願いごと : 上達したいことを英語で

中学・25分

🌀 get better at ~ / be good at ~ を使い、技芸の上達を願う七夕の本来の意味を体験する。

1. 七夕はもともと裁縫や字の上達を祈る行事だったことを紹介する。
2. I want to get better at ... の文を3つ書く。
3. そのために何をするかを I will ... で1文加える。
4. ペアで読み合い、相手の願いに Good luck! と返す。

3. 織姫と彦星の距離を計算しよう

中学・20分

🌀 数字と単位を英語で言い、光年のスケールを体感する。

1. Vega and Altair are about 14.4 light-years apart. を読み、light-year の意味を確認する。
2. 光が1秒で約30万キロ進むことから、14.4光年がどれほど遠いかを話し合う。
3. If they sent an email at the speed of light, when would it arrive? を英語で答える。

4. アジアの七夕くらべ

高校・40分

🌀 中国・韓国・日本の七夕の違いを調べ、比較の表現で発表する。

1. compare の表と advanced を読み、3か国の違いをまとめる。
2. 雨の意味、日付、主な習慣の3点で表をつくる。
3. In Korea, rain means ..., while in Japan ... のように比べる文を書く。
4. 1班1分で発表する。

5. ディスカッション : 行事は旧暦？新暦？

大学・45分

🌀 暦の改革と伝統行事の関係について、根拠を挙げて意見を述べる。

1. advanced を読み、1873年の改暦が七夕に与えた影響を整理する。
2. 7月7日・月遅れ・伝統的七夕のそれぞれの長所と短所を挙げる。
3. グループで1つの立場を選び、3分で主張する。
4. 最後に150語の意見文を書く。



1. English Tanzaku : 英語の短冊を書こう

授業手順書（詳細版）／対象：小学校／20分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

I want to ～. / I hope ～. の形で自分の願いごとを英語で書き、みんなの前で読み上げられる。

準備

- 織姫と彦星の話の絵（4場面：布を織る織姫・牛の世話をする彦星・天の川で分けられる・年に1度会う）
- 色紙の短冊（1人1～2枚）とひも
- 笹（なければ模造紙にかいた笹）
- 基本セット p.6（迷路：Help Hikoboshi cross the Milky Way to meet Orihime!）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	4場面の絵を見せながら、織姫と彦星の話をやさしい英語と日本語で紹介する。This is Orihime. She makes cloth. / This is Hikoboshi. He takes care of cows. のように1場面1文で話す。	絵を見ながら話を聞き、織姫と彦星を英語で言う。	"This is Orihime. She makes beautiful cloth." "This is Hikoboshi. He takes care of cows." "They can meet only once a year, on July 7."
展開1	4	先生の短冊の見本を見せる（I want to swim fast. / I hope my family is happy.）。I want to のあとに動作を続けることを示し、何人かに願いを日本語で言ってもらって、一緒に英語にする。	見本を読み、自分の願いを考える。	"Look at my wish. I want to swim fast." "What do you want to do?" "Oh, you want to play soccer well. Let's say it in English."
展開2	7	短冊に英語で願いを書かせる。書けた子から教室の笹に飾らせる。スペルがわからない語は、先生が小さな紙に書いて渡す。	短冊に英語で願いを書き、笹に飾る。	"Write your wish on the paper." "Start with 'I want to' or 'I hope.'" "Great! Hang it on the bamboo."
まとめ	4	何人かが前に出て短冊を読み上げる。聞いている子は Good luck! と声をかける。	短冊を読み上げ、友だちの願いに Good luck! と返す。	"Who wants to read your wish?" "Everyone, say 'Good luck!'" "I hope all your wishes come true."

板書例

Tanabata (July 7)

★ Orihime (Vega) ★ Hikoboshi (Altair)

I want to ____.

例：I want to swim fast.

I hope ____.

例：I hope my family is happy.

Good luck!

評価のポイント

- I want to ～. / I hope ～. の形で願いを書けたか。
- 自分の短冊を声に出して読めたか。

つまずきへの手だて

- 書くのがむずかしい子には、先生が書いた文をなぞらせる。
- 願いが思いつかない子には、スポーツ・勉強・家族の3つの絵カードから選ばせる。
- 前で読むのが苦手な子は、席で読むか、先生と一緒に読む。

発展

- 基本セット p.6 の迷路（彦星が天の川をわたって織姫に会う）に取り組む。
- 基本セット p.5 の暗号を解いて MAKE A WISH のメッセージを見つける。
- 基本セット p.8 のなぞり書きで STAR・BAMBOO を書く。

使う教材

- 基本セット p.6（迷路）
- 基本セット p.5（暗号）
- 基本セット p.8（なぞり書き・ぬりえ）



2. 「乞巧奠」スタイルの願いごと：上達したいことを英語で

授業手順書（詳細版）／対象：中学／25分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

七夕がもともと技芸の上達を願う行事だったことを知り、I want to get better at ～. と I will ～. を使って、上達したいこととそのための行動を英語で書ける。

準備

- このサイトの英語ページ本文の第4段落（印刷）と音声
- 短冊型のワークシート（願い3つと I will の1文を書く欄）
- 五色の糸か、針と糸の写真（乞巧奠の説明用）
- 基本セット p.7（作文：I want to get better at _____, so I will _____.）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	五色の糸か針の写真を見せ、「七夕に針と糸？」と問いかける。英語ページ本文の第4段落を聞かせ、中国では女性が裁縫の上達を、江戸時代の日本では子どもが字の上達を願ったことを確認する。乞巧奠（技芸の上達を祈る行事）という名前を紹介する。	本文を聞き、七夕のもともとの願いを知る。	“Why a needle and thread on Tanabata?” “Long ago in China, women prayed to become better at sewing.” “In the Edo period, children wished for better handwriting.”
展開1	5	get better at ～（～が上達する）と be good at ～（～が得意だ）のちがいを例文で示す（I'm good at drawing. / I want to get better at English.）。at のあとには名詞か -ing が来ることを確認する。	2つの表現のちがいを確認し、例文を言う。	“I'm good at drawing. That means I can draw well now.” “I want to get better at English. That means I want to improve.” “After 'at,' use a noun or -ing. Get better at swimming.”
展開2	9	I want to get better at ～. の文を3つ書かせ、そのうち1つについて、そのために何をするかを I will ～. で1文加えさせる（例：I want to get better at the piano. I will practice for 20 minutes every day.）。	上達したいことを3つ書き、そのための行動を1文書く。	“Write three things you want to get better at.” “Choose one. What will you do?” “I will practice for 20 minutes every day.”
まとめ	6	ペアで読み合い、相手の願いに Good luck! と返させる。何人かに全体の前で読ませる。ワークシートは笹に飾るか、教室に掲示する。	ペアで読み合い、相手の願いに Good luck! と返す。	“Read your wishes to your partner.” “Say 'Good luck!' to your partner.” “Let's put your wishes on the bamboo.”

板書例

七夕のもともとの願い：上達（乞巧奠）

China：women → better at sewing

Edo Japan：children → better handwriting

I'm good at _____.（今、得意）

I want to get better at _____.（上達したい）

at + 名詞 / -ing

I will _____.

例：I want to get better at the piano. I will practice for 20 minutes every day.

評価のポイント

- get better at のあとに名詞か -ing を正しく続けられたか。
- 上達したいことに合った具体的な行動を I will ～. で書けたか。
- ペアで相手の願いを聞き、反応できたか。

つまずきへの手だて

- 3つ思いつかない生徒には、勉強・スポーツ・趣味から1つずつ考えさせる。
- ing の形がわからない生徒には、swimming / drawing / cooking / speaking English の例カードを渡す。
- I will の文が書けない生徒には、practice / read / study / ask の動詞カードから選ばせる。

発展

- 基本セット p.7 の作文 I want to get better at _____, so I will _____. に取り組む。
- Discussion の問い What wish would you write on a tanzaku this year? にペアで答える。
- 平安時代の宮中では梶の葉に願いを書いたことを紹介し、今の短冊との違いを考える。

使う教材

- このサイトの英語ページ本文（第4段落）と音声
- 基本セット p.7（作文）



3. 織姫と彦星の距離を計算しよう

授業手順書（詳細版）／対象：中学／20分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

大きな数字と単位（light-year, kilometers）を英語で言い、ベガとアルタイルの距離14.4光年がどれほど遠いかを計算と英語で説明できる。

準備

- このサイトの英語ページ本文の第3段落と音声
- 夏の大三角の星図（ベガ・アルタイル・デネブ）
- 電卓（ペアに1台）
- 大きな数の読み方の表（thousand / million / billion / trillion）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	星図で夏の大三角を見せ、ベガが織姫、アルタイルが彦星であることを確認する。英語ページ本文の第3段落を聞かせ、Vega and Altair are about 14.4 light-years apart. を板書する。light-year は時間ではなく距離の単位（光が1年で進む距離）だと確認する。	星図で2つの星を見つけ、light-year の意味を確認する。	"Orihime is Vega. Hikoboshi is Altair." "They are about 14.4 light-years apart." "A light-year is not time. It is distance."
展開1	7	光は1秒で約30万キロ進むことを示し、1年で進む距離をペアで電卓で計算させる（ $300,000 \times 60 \times 60 \times 24 \times 365 \div 9 \div 1000 = 9.5$ 兆 4600 億キロ）。大きな数の読み方の表を使い、about 9.5 trillion kilometers と英語で言わせる。	電卓で1光年の距離を計算し、英語で読む。	"Light travels about 300,000 kilometers in one second." "How far does it go in one year? Use your calculator." "About 9.5 trillion kilometers. Say it with me."
展開2	5	If they sent an email at the speed of light, when would it arrive? を英語で問う。14.4年かかるので、2026年の七夕に送ると届くのは2040年の終わりごろになることを、ペアで考えさせて英語で答えさせる。	光の速さで送ったメールがいつ届くかを考え、英語で答える。	"Hikoboshi sends an email at the speed of light." "When will it arrive?" "It will take about 14 years. It will arrive in 2040."
まとめ	4	本文の Even light needs more than 14 years to travel between them. を全員で読む。「年に1回会う」のは、光の速さでも無理なほど遠いことを確認して終える。	本文の文を読み、2つの星の遠さをまとめる。	"Even light needs more than 14 years." "Can they really meet once a year?" "It's a beautiful story, but the stars are very far apart."

板書例

Vega (Orihime) ⇔ Altair (Hikoboshi)
about 14.4 light-years apart

1 light-year = the distance light travels in one year
 $300,000 \text{ km} \times 60 \times 60 \times 24 \times 365 \div 9 \div 1000 = 9.5$ trillion kilometers
 = about 9.5 trillion kilometers

An email at the speed of light : 2026 → about 2040
 Even light needs more than 14 years.

評価のポイント

- light-year が距離の単位であることを説明できたか。
- 大きな数を英語で読めたか（trillion など）。
- 光の速さのメールが届くまでの年数を、英語で答えられたか。

つまづきへの手だて

- 計算が苦手な生徒には、1日分（ $300,000 \times 60 \times 60 \times 24$ ）を先生が示し、365倍だけさせる。
- 大きな数が読めない生徒には、3けたごとのコンマと単位（thousand / million / billion / trillion）を対応させた表を見ながら読ませる。
- 英語で答えられない生徒には、It will arrive in ____ の空所に年だけ入れさせる。

発展

- 夏の大三角のうち1つの星デネブを調べ、ベガやアルタイルとの距離を比べる。
- Discussion の問い Have you ever seen the Milky Way? Where and when? にペアで答える。
- 基本セット p.4 のクロスワード（VEGA・ALTAIR・STAR が入っている）に取り組む。

使う教材

- このサイトの英語ページ本文（第3段落）と音声
- 基本セット p.4（クロスワード）



4. アジアの七夕くらべ

授業手順書（詳細版）／対象：高校／40分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

中国・韓国・日本の七夕を、雨の意味・日付・主な習慣の3点で比べた表を作り、while を使った比較文で英語で発表できる。

準備

- 記事の国くらべ表（中国・韓国・日本の仙台・北海道・沖縄など）
- このサイトの英語ページの発展英文 One Story, Many Calendars（印刷・人数分）
- 比較表のワークシート（国・雨の意味・日付・主な習慣の欄）
- アクティビティ集 B5（国くらべ）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	「七夕に雨が降ったら、うれしい？悲しい？」と問う。日本では「会えない涙」と言われるが、韓国では雨が再会の「うれし涙」とされることを紹介し、同じ物語でも国によって意味がちがうことに気づかせる。	七夕の雨についての感じ方を言い、韓国との違いを知る。	"If it rains on Tanabata, is it happy or sad?" "In Korea, rain is welcomed as tears of joy." "One story, different meanings. Let's compare."
展開1	12	国くらべ表と発展英文を読ませ、中国・韓国・日本の3か国を、雨の意味・日付・主な習慣の3点で表にまとめさせる。 例：中国は旧暦7月7日で恋人たちの日、韓国は旧暦7月7日で雨はうれし涙、日本は7月7日・月遅れ・伝統的七夕があり、短冊に願いを書く。	資料を読み、3か国を3点で比べる表を作る。	"Read the table and the passage." "Compare three countries: the meaning of rain, the date, and the main custom." "Which countries still use the lunar calendar?"
展開2	9	In Korea, rain means ～, while in Japan ～. の形で、比較文を3つ書かせる。雨の意味・日付・習慣のそれぞれで1文ずつ書くよう指示する。	while を使って比較文を3つ書く。	"In Korea, rain means tears of joy, while in Japan it means sad tears." "Write one sentence for each point." "Check your facts with the table."
まとめ	14	1班1分で発表させる。全班的発表が終わったら、発展英文の最後の文 One story, in other words, can produce many different holidays. を読み、なぜ同じ話がちがう行事になったのかを短く話し合う。	比較文を発表し、同じ物語がちがう行事になった理由を考える。	"Each group has one minute." "One story can produce many different holidays." "Why do you think that happened?"

板書例

Tanabata in Asia

| rain | date | main custom / story

China | — | 7th day of the 7th lunar month | a festival for couples

Korea | tears of joy | 7th day of the 7th lunar month | the magpies' bald heads

Japan | sad tears | July 7 / August / traditional date | wishes on tanzaku

In Korea, rain means ____, while in Japan ____.

One story → many different holidays

評価のポイント

- 3か国の3点を、資料にそって正しく表にまとめられたか。
- while を使って、違いを明確に表す文を書けたか。
- 1分の発表で、聞き手に分かる英語で話せたか。

つまづきへの手だて

- 読むのに時間がかかる班には、国くらべ表の中国・韓国の行と、発展英文の第3段落だけを読ませる。
- 比較文が書けない生徒には、型の空所に入れる語句（the lunar calendar / a day for couples / tears of joy）を渡す。
- 発表が苦手な生徒は、表を指しながら読む役にする。

発展

- Discussion の問い Why do you think the same story became a lovers' day in China but a wish day in Japan? について意見を書く。
- 北海道の「ローソクもらい」や沖縄の旧暦七夕の墓掃除など、日本国内のちがいも表に加える。
- ブラジル・サンパウロの七夕祭りを調べ、アジアの外に広がった例として紹介する。

使う教材

- 記事の国くらべ表
- このサイトの英語ページの発展英文 One Story, Many Calendars
- アクティビティ集 B5（国くらべ）



5. ディスカッション：行事は旧暦？新暦？

授業手順書（詳細版）／対象：大学／45分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

1873年の改暦が七夕に与えた影響を発展英文から整理し、7月7日・月遅れ・伝統的七夕の長所と短所をふまえて、行事の暦について根拠を挙げて英語で主張し、150語の意見文を書ける。

準備

- このサイトの英語ページの発展英文 One Story, Many Calendars（印刷・人数分）
- 記事の「七夕はいつ？」の節（伝統的七夕は2026年は8月19日）
- 長所・短所を書く表（7月7日／月遅れ／伝統的七夕の3列）
- タイマー

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	「七夕の夜、星は見えたことがある？」と聞く。7月7日は梅雨のさなかで星が見えにくいことを確認し、発展英文の第1段落から、もともとは旧暦7月7日で梅雨明けの夏の夜だったことを読み取らせる。	七夕の夜の天気を思い出し、もとの日付との違いを知る。	“Have you ever seen the stars on Tanabata night?” “July 7 is in the middle of the rainy season.” “What was the festival like before 1873?”
展開1	10	発展英文の第1・第2段落を読み、1873年の改暦の影響と、各地の対応（新しい日付のまま・1か月遅らせる・旧暦を続ける）を整理させる。2001年から国立天文台が伝統的七夕の日を発表していることも確認する。	改暦の影響と3つの対応を英語でまとめる。	“What happened in 1873?” “How did communities respond?” “Why does the observatory publish a traditional Tanabata date?”
展開2	10	グループで、7月7日・月遅れ・伝統的七夕のそれぞれの長所と短所を表に挙げさせる（例：7月7日は覚えやすいが雨が多い、伝統的七夕は星が見やすいが毎年日付が変わる）。	3つの日付の長所と短所を英語で表にまとめる。	“List the pros and cons of each date.” “July 7 is easy to remember, but it often rains.” “What about the traditional date?”
展開3	12	グループで1つの立場（7月7日／月遅れ／伝統的七夕）を選び、3分で主張させる。ほかのグループは主張のあとに質問を1つする。	選んだ立場を3分で主張し、ほかのグループに質問する。	“Choose one date for your group.” “You have three minutes to make your case.” “Other groups, ask one question.”
まとめ	8	議論をふまえ、Should old festivals follow the old calendar or the modern calendar? について150語の意見文を書かせる。8分で書き始め、残りは課題にする。	150語の意見文を書き始める。	“Should old festivals follow the old calendar or the modern calendar?” “Write about 150 words.” “Use Tanabata as your main example.”

板書例

One Story, Many Calendars
before 1873 : 7th day of the 7th lunar month (usually after the rainy season, a nearly half moon sets before midnight)
1873 : solar calendar → July 7 in the rainy season

- ① July 7 (new date)
- ② one month later (August, Sendai Aug. 6-8)
- ③ traditional date (lunar ; 2026 = August 19) ← NAOJ since 2001

pros / cons

Q. Old calendar or modern calendar?

評価のポイント

- 1873年の改暦の影響と3つの対応を、本文にそって整理できたか。
- 3つの日付の長所と短所を具体的に挙げられたか。
- 意見文が150語程度で、七夕の例を根拠に使えているか。

つまづきへの手だて

- 読むのに時間がかかる学生には、第1段落だけを先に読ませ、旧暦と新暦の違いを確認させる。
- 長所・短所が出ないグループには、「天気」「覚えやすさ」「学校や仕事」「星の見え方」の4つの観点を示す。
- 意見文の構成に迷う学生には、In my opinion, ... / First, ... / Second, ... / However, ... の骨組みを渡す。

発展

- このページの発展ワークシート（quiz・vocab・paraphrase）に取り組む。
- お盆やお月見など、ほかの旧暦の行事が改暦でどうなったかを調べて比べる。
- 中国と韓国が今も旧暦で七夕を祝っていることを、議論の根拠に加える。

使う教材

- このサイトの英語ページの発展英文 One Story, Many Calendars
- 記事「七夕はいつ？」の節